

学術研究の成果の概要

全国規模の調査で、要介護状態と関連性のある因子を同定する研究を行った。提供された匿名データのうち、平成 25 年の国民生活基礎調査に参加した、入院入所中の者を除く 65 歳以上の男女 23,730 名を主な対象とした。うち 1,718 名が介護認定ありと回答した。多変量解析により、高齢が特に関連性が高く、認知症、脳卒中、パーキンソン病、慢性閉塞性肺疾患、骨折、関節リウマチ、糖尿病、骨粗鬆症での通院、高い K6 スコアなどが要介護状態と正の関連性がみられた。逆に、配偶者有り、高血圧での通院、悩みやストレスを友人に相談していること、などは、要介護状態と負の関連性がみられた。